資料1-2

和泉市地域福祉基本・活動計画の令和7年度進捗報告について

事務局から報告する議題について、資料1-1第５次地域福祉基本・活動計画　目標に対する取組み状況の一覧表より、委員の皆様からご意見をいただきたい項目について抜粋しています。

1. 小分類No. 21　：「避難行動要支援者支援体制」の構築支援

■各町会・自治会単位や各小学校区単位でつくる避難行動要支援者支援体制の構築を支援します。

実施主体	業績目標						
市（福祉総務課）	避難支援等実施者（近隣の支援者）が決まっている避難行動要支援者の数						
	現状値	R6	R7	R8	R9	R10 目標値	R7実績
	120 名	440 名	660 名	870 名	1,080 名	1,300 名	97名
	成果目標						
	「避難行動要支援者が避難できる地域防災体制がある」と感じる市民の割合						
	現状値	R6	R7	R8	R9	R10 目標値	R7実績
	－	20%	30%	40%	50%	60%	26%

●進捗状況

○令和7年度取組内容

事業説明会にて、地域の支援者に対し、近隣の支援者登録の呼びかけを行った。また、要支援者本人に現在の個別支援計画を送付し、周りに支援をお願いできる人がいるかを確認するよう啓発を行った。

○令和7年度実績、目標達成状況及び要因

要支援者本人とその家族に対し、現況確認届を送付した際に、『避難支援が必要な場合は、近くに支援者がいるかを確認いただく』旨を記載したチラシを同封したが、近隣の支援者の登録の必要性が十分に伝わらなかったため。

○今後の方向性及び実施（予定）内容

必要になる避難支援を、要支援者本人やその家族に考えていただき、その中で近隣の支援者の登録も視野に入れられるように啓発を行う。

発災時に要支援者本人、避難支援等関係者、避難支援実施者（近隣の支援者）がどのように行動するのか、どのタイミングで安否確認や避難誘導を行うのかを明らかにする。

●論点

・「避難行動要支援者支援事業の一層の推進に向けて」

災害時に、孤立リスクの高い要支援者が早期発見され避難できる体制の整備に向けて、毎年、事業説明会を開催し、自身の情報提供を希望された要支援者の情報を台帳に綴り地域の支援者（町会・自治会、民生委員、主任児童委員、校区社会福祉協議会、消防団）にお渡ししている。

各地域で台帳を活用した支援の体制が進むための方法について意見をいただきたい。

また、災害が発生したと想定して、各組織がどのような動きをとるのか、●参考にあるような、避難支援等関係者の役割だけに捉われず、組織としての性質も踏まえたうえで、意見をいただきたい。

●参考

（厚生労働省作成『避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針』にて想定されている役割）

避難支援等関係者

和泉市 ： 町会・自治会、民生委員、主任児童委員、校区社会福祉協議会、消防団

【原文一部抜粋】（57ページ）

〇災害時における取組の例

・高齢者等避難などの避難情報や、防災気象情報の伝達をすること

・避難状況や自宅の被災状況などの安否の確認をすること

・避難先まで一緒に移動すること

・避難状況について情報を共有すること

・情報伝達状況、安否確認状況、避難状況などの情報を記録し、共有すること

避難支援実施者

個別支援計画に基づく避難支援の実施

和泉市 ： 近隣の支援者

【原文抜粋】（24ページ）

避難支援等実施者は、発災又は発災のおそれが生じた場合は、作成した個別避難計画に基づき、自らの安全確保に配慮しつつ、避難行動要支援者の避難支援を実施する。

2. 小分類No. 10 ： 各小学校区の『協議の場』の充実

■●地域の情報を収集し、住民の困りごとを早期に発見、解決するために、小学校区単位で行政・多機関の専門職、地域のボランティアが情報交換を行い、協働した活動ができるように『協議の場』の開催を支援するとともに、地域福祉推進コーディネーターを配置し、地域の福祉課題解決に向けた取組みを支援します。

<table>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="7">業績目標</td></tr>
<tr><td rowspan="8">市（福祉総務課）
市社会福祉
協議会</td><td colspan="7">重点目標を進めるための話し合いの場を年 4 回以上開催する
校区数（全 21 校区）</td></tr>
<tr><td>現状値</td><td>R6</td><td>R7</td><td>R8</td><td>R9</td><td>R10
目標値</td><td>R7実績</td></tr>
<tr><td>3～5
校区</td><td>6 校区</td><td>8 校区</td><td>10 校区</td><td>15 校区</td><td>21 校区</td><td>12校区</td></tr>
<tr><td colspan="7">成果目標</td></tr>
<tr><td colspan="7">重点目標を達成した校区数（全 21 校区）</td></tr>
<tr><td>現状値</td><td>R6</td><td>R7</td><td>R8</td><td>R9</td><td>R10
目標値</td><td>R7実績</td></tr>
<tr><td>―</td><td>現状値
確認</td><td>6 校区</td><td>8 校区</td><td>10 校区</td><td>15 校区</td><td>21校区</td></tr>
</table>

●進捗状況

〇令和7年度取組内容

『協議の場』の開催支援を行った。また、校区別アクションプランを意識づけられるよう、開催冒頭には校区社協活動の意義や校区別アクションプランについて、参加者と共有するよう心掛けた。

また、今年度は令和8年3月4日に防災をテーマに「校区別アクションプラン実践報告会」を開催。2校区による防災活動事例の発表と21校区の校区別アクションプランの進捗状況をパネル化して掲示した。

〇令和7年度実績、目標達成状況及び要因

校区別アクションプランの進捗を見える化するパネルを各校区で作成・掲示したことで、他校区の取組みを参考にしながら自校区の活動を前向きに捉える機会となり、重点目標の推進に向けた意識づけや動機づけにつながった。また、21校区全てにおいて校区別アクションプランを主眼に置き地域活動を進めることができ、3つある重点取組み内の具体的な取組みとして提示する項目の内1つもしくは2つの取組みを進めることができた。

〇今後の方向性及び実施（予定）内容

引き続き、校区担当を中心に各校区への丁寧な支援を行うとともに、「校区別アクションプラン実践報告会」を開催し、活動の手法や成果を共有することで、地域活動への意欲や機運を高めていく。

3. 小分類No. 11 ： 小学校区別アクションプランの実現支援

●小学校区別アクションプランの目標達成に向け、話しあいの場づくりの支援を行うとともに、先進事例や活用出来る社会資源等の情報提供など、住民主体の福祉活動への伴走支援を行います。

実施主体	業績目標						
市社会福祉協議会	協議の場の開催、運営支援						
	現状値	R6	R7	R8	R9	R10 目標値	R7実績
	21校区	21校区	21校区	21校区	21校区	21校区	20校区
	成果目標						
	協議の場実践活動補助金の活用数						
	現状値	R6	R7	R8	R9	R10 目標値	R7実績
	5 校区	5校区	6校区	6校区	7校区	7校区	13校区

●進捗状況

〇令和7年度取組内容

校区別アクションプランに基づく協議を通じて、継続的な地域活動の実践につなげるとともに、補助金を活用した取組みも広がった。

〇令和7年度実績、目標達成状況及び要因

校区社協会長をはじめとする活動者の皆さまの間で、「校区別アクションプラン」を進めていくという意識が、第5次地域福祉基本・活動計画の開始以降着実に浸透してきている。協議の場での話し合いも単発で終わるのではなく、年度をまたいで継続的に取り組む校区が増えてきた。また、協議の場を開催できなかった1校区についても、次年度の新たな地域活動の開始に向けて調整が進んでいる。さらに、活動実践補助金をはじめとした助成金を有効活用する校区も増えており、地域活動の活性化につながっていると考えられる。

〇今後の方向性及び実施(予定)内容

引き続き、市域で活発な協議に基づく地域活動が推進できるよう各校区社協の伴奏支援を行っていく。

4. 小分類No. 36 ： 市社協

●「共助をささえる共助」の機関として市社協の組織と運営を強化します。

<table>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="7">業績目標</td></tr>
<tr><td rowspan="6">市社会福祉協議会</td><td colspan="7">市社協の組織と運営を強化できるように
「プロジェクトチーム」での検討</td></tr>
<tr><td>現状値</td><td>R6</td><td>R7</td><td>R8</td><td>R9</td><td>R10
目標値</td><td>R7実績</td></tr>
<tr><td>－</td><td>「プロジェクトチーム」での検討</td><td>新たな取組みや必要に応じて組織改革の案を作成</td><td>新たな取組み実施、必要に応じて組織改革実施</td><td>新たな取組み実施、必要に応じて組織改革実施</td><td>新たな取組み実施、必要に応じて組織改革実施</td><td>「社会福祉協議会基本要項2025」への理解を深め、新たな取組みを検討する基盤づくりを目的として、法人管理職を対象とした学習会を実施した。また、法人内の若手職員を対象としたコミュニティワーク学習会では、「社会福祉協議会基本要項2025」について学ぶとともに、大学教員を講師に迎え、コミュニティワークの基礎や法人内の連携・協働について学び、実践につなげるために考える機会を設けた。</td></tr>
<tr><td colspan="7">成果目標</td></tr>
<tr><td colspan="7">理事会、評議員会による検討業績の評価</td></tr>
<tr><td>現状値</td><td>R6</td><td>R7</td><td>R8</td><td>R9</td><td>R10
目標値</td><td>R7実績</td></tr>
<tr><td>－</td><td>検討結果への評価</td><td>新たな取組み案への評価</td><td>新たな取組み実施状況への評価</td><td>新たな取組み実施状況への評価</td><td>新たな取組み実施状況への評価</td><td>新たな取組は行えなかった。</td></tr>
</table>

●進捗状況

〇令和7年度取組内容

「社会福祉協議会基本要項2025」や各種セミナー等へ参加し、社会福祉協議会のあるべき姿として、社協の全職員が地域福祉の推進を意識して、担当する事業を展開していく事が必要だと考え、それを実行していくための手段を検討した。

※「社会福祉協議会基本要項2025」 参考
【社協の使命】地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として、住民主体の理念に基づき、住民や地域の関係者との協働により、「ともに生きる豊かな地域社会」を創造すること
【住民主体の理念】
① 住民を中心に置くこと
② 住民のニーズに基づくこと
③ 住民の主体形成と組織化を基礎とすること

〇令和7年度実績、目標達成状況及び要因
法人内で「社会福祉協議会基本要項2025」への理解を深め、受託事業や自主事業などにおいても【社協の使命】に基づく活動を推進する基盤を整える一年となった。

〇今後の方向性及び実施(予定)内容
令和7年度の学びを実践へとつなげるため、地域福祉課参事を2名配置し、受託事業や自主事業において地域福祉推進を意識した社協らしい新たな取組みを考え実施していく。
また、実施した新たな取組みを法人内で共有する体制を整え、社協内各課各係で、社協らしい新たな取組みを考え、実施出来るようになる。

④ 小分類No. 19 ： 担い手講座の開催

●担い手講座を含む講座を開催し、ボランティアとして、地域福祉活動に参加するきっかけづくりを行います。

実施主体	業績目標						
市社会福祉協議会	新たな担い手のきっかけの場作りや活動の支援						
	現状値	R6	R7	R8	R9	R10 目標値	R7実績
	3回	3回	4回	4回	5回	5回	7回
	成果目標						
	担い手講座受講後、地域福祉活動につながった人数						
	現状値	R6	R7	R8	R9	R10 目標値	R7実績
	5 人	10人	15人	20人	25人	30人	13人

●進捗状況

〇令和7年度取組内容

「子どもの居場所づくりの担い手講座」と「シニア男性を対象にコーヒーの淹れ方や地域カフェの運営を学ぶ講座」の開催や年輪大学院チャレンジボランティアの活動調整、桃山学院大学生のボランティア活動調整を行い、地域福祉活動への参加のきっかけづくりに努めた。

また、3小学校では福祉教育の一環として、ふれあい訪問利用者へ届ける手紙を児童が作成し、直接的な活動だけでなく、思いやりを形にする間接的なボランティア活動を体験する機会を創出した。こうした取組みを通じて、子どもから高齢者まで幅広い世代が「誰かのためにできること」を考え、実践するきっかけづくりにつながった。

〇令和7年度実績、目標達成状況及び要因

興味関心のあることや無理なくできるボランティア活動を提案するとともに、担い手講座や体験の場など、多様なきっかけづくりを行ったことがボランティア活動への参加促進につながった。

また、大学生や小学生のボランティア体験では、活動の意義を実感し、自己肯定感の向上や「また参加したい」という意欲につながるよう対象者からの「ありがとう」の声が直接届くよう工夫した。

〇今後の方向性及び実施(予定)内容

引き続き、今年度同様ボランティアのきっかけの場づくりや活動支援は継続していく。今年度、シニア男性を対象とした担い手講座から誕生した「café☆おじーず倶楽部」は、地域とのつながりや社会参加のきっかけを求めるシニア男性の仲間づくりや活動の場づくりを進め、「プチおじーず」の育成を通じてシニア男性の社会参加促進に取り組んでいく。また、自分も人も大事にしあえる地域づくりについての学びを深め、その想いをカフェ活動を通じて発信する新たな取組みを展開していく。

●論点
自分も人も大事にしあえる地域作り　→　地域共生社会

おじーずが、“知る”“出会う”ことで、これまでの見方や行動に変化が生まれることを目指す。
これからおじーずは何を知り、何を学ぶことで、さらに自分自身の行動を変えていけるのか。
その学びや行動の変化が、地域の一般市民にも広がっていくのではないか。

具体的な学習テーマについてご意見をいただきたい。
・「おじーずにこんなことを学んでほしい」
・「こんな人の話を聞いてみたら」
・「こんな体験をしてみたら」